



「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。  
人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」  
(ヨハネ福音書15章5節)

### ご卒業おめでとうございます

皆様は2019年の春に入学した方が殆どと思いますが、その最初の一年目が終わろうとしていた2020年1月の終わりに、誰も予想もしていなかった事態が発生しました。そうです。コロナ・パンデミック。

当初はコロナ・ウイルスがどういふものなのか、私たちの殆どは理解していなかったと思います。毎日報道される新規感染者数、入院患者数、重症者数、死者数などの情報に接し、増えていく数字に不安な心で日々を送りました。

大学では目前の卒業式や入学式、そして、4月からの授業をどうするか、対応しなければならないことが山積しており、教職員の方々は連日遅くまで必死の奮闘。2年目そして3年目になって、次第に状況が改善され、学生たちにはオンラインだけでなく、対面授業も実施されて、学内に学生の笑顔が見られるようになって大変嬉しく感じました。

世界中が、一先進国も、後進国も、主義主張や、人種・国籍・宗教など、あらゆる相違を問わず一、同じ課題に取り組まなければならない経験は、人類の歴史の中で大きな意味があったと感じます。

当初欧米に見られた驚くべき死者の数、感染者の完全隔離、それに伴う心理的な隔絶。最も親密な別れが必要な愛する人の死に際して、人間らしいお別れもできない悲劇。どれ

ほど多くの方が心に深いトラウマを遺しているのでしょうか。

人生には、全く予想もしなかったようなことが起こることがあります。病気・災害・戦争・思わぬ挫折、…。皆様のこれからの人生の道のりには、バラ色のことばかりが待っているとは限りません。バラにも棘があるように、人生の途上において、何らかの棘に遭遇することもあるでしょう。

皆様は是非読んでいただきたい本があります。すでに多くの方が読まれたかもしれませんが、何度でも読む価値のある本です。

アウシュヴィッツの強制収容所に収容されていたウィーンの数学者ヴィクトール・フランクルの『夜と霧』という書物です。強制収容所の中で生きる目的を失って、失望のうちに死んでいく多くの人々に接して、彼が得た確信が述べられています。

「ここで必要なのは、生きる意味についての問いを百八十度方向転換することだ。わたしたちが生きることから何を期待するのではなく、むしろひたすら、生きることがわたしたちからなにを期待しているかが問題なのだ、ということ

てくる。私たちはその問いに答えを迫られている。…ひとえに行動によって、適切な態度によって、正しい答えは出される。生きるとはつまり、生きることの問いに正しく答える義務、生きることが各人に課す課題を果たす義務、時々刻々の要請を満たす義務を引き受けることに他ならない。…

どんな状況も二度と繰り返されない。そしてそれぞれの状況ごとに、人間は異なる対応を迫られる。具体的な状況は、あるときは運命をみずから進んで切り拓くことを求め、あるときは人生を味わいながら真価を發揮する機会を与え、またあるときは淡々と運命に甘んじることを求める。」(V.フランクル『夜と霧』池田香代子訳 みずず書房 2007年、129-130ページ 下線は永田)

どうぞ皆様、どんな時にも絶望せず、時々刻々問いかけられる人生の問いに、応えて歩んでください。

(Sr.永田 淑子)

### 聖書のことば

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」(ヨハネ 15:12-13)

